

退職にあたって

創立30周年を迎える当所にはほぼ29年間お世話になりました。名古屋大学農学部の個人事業主のような講座から異動によって、大型ヘリカル装置(LHD)という全所を挙げてのプロジェクト研究を推進していく社会的意義の高い事業に参加させていただきました。本当に微力ではありましたが、建設当初の頃から加わらせていただいたことを感謝しています。

業務遂行に当たって、必要な資格も色々取得させていただきました。あまり活用できなかった資格もありましたが、『人生死ぬまで勉強だよ』と云ってくださった採用当時の先生の言葉どおり勉強する機会を多くいただきました。また、研修として放送大学数単位取得、英会話、ハングルも職務専念義務免除という形で、勤務時間中に勉強させていただきました。『勉強は仕事じゃないよ』と忠告してくださった先輩の言葉は今でも心に残っています。ただ、勉強したことを仕事にもっと生かし、継続し、実績を積み重ねていけば、真に実力のある技術者になれたらと今更ながらに後悔しきりです。

写真は、計測実験棟大実験室で平成8年頃写し

加藤 明己

ていただいたもので、トムソン散乱計測用の作成途中のミラーに反射した20数年前の私です。ほぼ800平方メートルの広い空間で、装置の開発を行っていた時です。当時私はX線パルス波高分析器(PHA)の開発研究の手伝いをしていました。検出器への信号強度を調節するためのフィルター交換機器の制御や、PHA用真空装置の制御を遠隔で行うため、GPIBやRS-232Cを用いた通信プログラムの開発、動作試験をしていました。まだ研究所の本拠地は名古屋でしたので、この広い空間に片手に満たない人間が動いていた頃でした。その後、加熱技術課、製作技術課と異動し、電動発電機の運転・保守、放射線測定と仕事を移し定年を迎えました。色々ご迷惑をおかけした皆様にご場をお借りして謝罪させていただくとともに、御礼申し上げます。今までありがとうございました。

(技術部製作技術課 課長代理)



TOPICS

トピックス

労働安全衛生に関する情報交換会（第14回）を開催

核融合科学研究所では、労働安全衛生法に基づく各機関の取り組み、活動状況及び課題等の情報交換を目的とする「労働安全衛生（安全衛生法対応等）に関する情報交換会」を、1月31日と2月1日の両日で開催しました。これは、法人化後の平成16年度からほぼ年1回の頻度で企画開催しているもので、今回は14回目となります。大学・大学共同利用機関・高等専門学校等19機関から、安全衛生に関わる技術職員を中心に、事務職員、研究者、大学等環境安全協議会評議員、労働衛生コンサルタントらを交えた約60名が参加しました。

開会にあたり、竹入所長から「本会がより良い安全衛生管理の実践につながることを期待する」と挨拶がありました。その後、7機関からの参加者から、防火・防災及び安全・衛生教育への取り組み、放射線管理並びにPCB・アスベスト廃棄物への対応等に関する12件の報告がありました。特に、PCB廃棄物や水質汚濁防止に関する話題では、各機関共通の懸案事項であることから盛んに質疑応答が交わされ、その中から具体的で示唆に富んだ取り組み事例が数多く紹介されるなど、有意義な情報交換会となりました。



19機関の参加者らによる記念撮影

また、研究所の大型ヘリカル装置(LHD)の見学会も併せて開催され、プラズマ実験中の制御室や稼働中の実験設備などを見学しました。参加者からは「生の実験現場を見ながら、安全・衛生管理に関する機関間の相違を互いに評し合う良い機会」などの声があり、大変好評でした。

閉会にあたり、西村安全衛生推進部長から、「真摯な語り合いの中から得た貴重な情報は、各機関での労働安全衛生の向上と労働者の安全確保に必ず役立つ」と挨拶がありました。



情報交換会の様子